

2007年度研究室活動記録

2007年度講義内容一覧

【生涯学習基礎論Ⅰ】 担当：教授・牧野 篤

社会教育論が現代社会に生きる若者・大人に意味をもつためには、まずこれまでの社会教育論を丁寧に見直していく必要があるのでは、という問題意識を基に、社会教育研究・実践の枠組みをつくってきた「主体」について、関係の論文を検討した。

【生涯学習基礎論Ⅱ】 担当：教授・牧野 篤

生涯学習基礎論Ⅰの、これまでの社会教育論を見直していくという問題意識を引き継ぎ、主として青年期教育論・若者論及び学習論に関する文献の検討を行い、今後の社会教育論の方向性を探った。社会教育・生涯学習において「教育」「労働」をどう考えていくかという問題意識を下地に議論が展開された。

【社会教育基礎論】 担当：准教授・鈴木真理

生涯学習・社会教育の議論においてしばしば言及される「フォーマル」「ノンフォーマル」「インフォーマル」というような教育・学習の分類について、その代表的な論者であるフィリップ・クームスの著書の翻訳・解釈の作業を中心として検討を行った。

【社会教育計画論】 担当：准教授・鈴木真理

社会教育計画・生涯学習推進計画の策定における諸問題を把握するために、基本文献の検討を行った。その際に、各報告者は、戦後の（地域）教育計画の議論や、都市計画や福祉計画の議論、ガバナンスの議論などを取り上げながら、計画策定の目的やプロセス、対象とする範囲、計画と参加などのテーマについて、考察を行った。

【社会教育学基礎理論Ⅴ】 担当：非常勤講師・末本 誠

現代日本の生涯学習・社会教育の課題、および生涯学習・社会教育研究の課題について、講師のこれまでの研究のテーマとその成果を跡付けるとともに、現在進行中の研究の意義と主にその方法論的な課題に焦点を絞って、講師の問題提起に即しつつ議論を行った。

【社会教育学基礎理論Ⅵ】 担当：非常勤講師・辻 浩

少人数ではあったが、他コース、留学生の参加もあり、様々な立場からの議論がなされた。福祉を専門としていない参加者も含めて、各自の興味関心に沿ったテーマが取り上げられ、福祉と教育の接点について議論がなされた。

【生涯学習論論文指導】 担当：教授・牧野 篤

月に一度ペースで実施し、参加者全員が研究近況の報告を行った。それぞれの参加者の報告をもとに、教員から各報告者への指摘がなされ、参加者一同の研究の方向

性を検討する機会となった。

【社会教育学論文指導】 担当：助教授・鈴木真理

ゼミ形式を中心として、修士論文執筆予定者には定期的に論文構想を発表してもらい、論文の内容を深めてもらう機会とした。また、学会の紀要等における生涯学習・社会教育学関連の論文や、参加者の執筆した論文を取り上げ、研究方法論等について討議を行なった。

学位論文

（博士論文2007年3月）

丸山啓史「イギリスにおける知的障害者継続教育の成立と展開—青年・成人教育のカリキュラム開発を中心に—」

（修士論文2007年3月）

荻野亮吾「社会教育論における参加概念の研究」

佐藤晃子「社会教育における『家庭教育支援』の歴史的展開」

陳玄珉「韓国における『地域多文化教育』の実践と課題—『安山国境のない村』の実践を事例に—」